

## 〈研究授業報告〉

### 令和四年度研究授業を参観して

中間高等学校 阿部 なつき

令和四年十二月七日に福岡県立青豊高等学校において、岡部桂子教諭による研究授業が行われた。高校教育課高口指導主事、若松高校早川教頭先生をお迎えし、県内四十七校の参加があった。

今年度は新学習指導要領が施行された。一人一台端末が導入され、教育現場は日々目まぐるしく変化している。

今回の研究授業の対象生徒は第一学年に所属する二十八名。単元は行書の学習「風信帖」を扱い、筆脈を通し複数の文字を書くという行書の用筆、運筆を学ぶこと、「IC」機器を活用し、自身の揮毫動画と教員の範書動画を比較検証し、墨の含ませ方、運筆の速度、筆脈を実感し、表現に活かすことを目標としていた。指導計画は左記の通りである。

- ① 風信帖の筆者、歴史的背景や内容等について学び、行書の特徴について復習する
- ② 王羲之、顔真卿の書風との比較を行い類似する文字を各一字ずつ選び揮毫する
- ③ 風信帖より「妙門」を臨書し、分析を行う
- ④ (本時) 揮毫動画の撮影、相互鑑賞等を行い、作品を完成させる
- ⑤ 鑑賞を行い、単元のまとめを行う

青豊高校では書道教室にクロームブックの保管庫が設置されており、生徒たちは授業前の準備の際に保管庫から自分のクロームブックを出し、

授業に参加していた。

今回の研究授業を参観して、生徒がクロームブックの操作に慣れており、普段から活用されていると感じた。また様々な場面で使用されており、生徒たちが非常に興味を持って授業に臨んでいる様子が伺えた。古典に書き込みを行うことで、形だけでなく、筆脈や太細の変化、空間にも目を向けて古典と自身の作品をよく比較し臨書している生徒が多かった。書き込みであれば紙媒体でも可能だが、レイヤーを外すことで書き込みを簡単に消したり、つけたりすることができるのは非常に効果的だと感じた。また範書動画を繰り返し見ている生徒も多く、遅速の変化に気づき、臨書に活かす生徒が多かった。なによりも生徒たちが非常に楽しそうに、協力して作品制作を行っている姿が印象的だった。IC機器を活用し生徒たちが上手になったと実感し、達成感を感じる授業となっていた。今後、自身の授業においても効果的にIC機器を使用し、生徒たちが主体的に作品制作に取り組める授業を行っていきたい。

終わりに、今回の研究授業開催にあたり会場を提供して頂いた福岡県立青豊高校、お忙しい中準備をしてくださった岡部先生をはじめ関係の先生方に感謝を申し上げ、報告とする。